

研究・調査報告書

報告書番号 27	担当 札幌医科大学医学部薬理学講座
題名 (原題/訳) Prospective study of alcohol consumption and risk of dementia in older adults. 老齡成人でのアルコール摂取と痴呆の危険性に関する (疫学的) 前向き研究	
執筆者 Mukamal KJ, Kuller LH, Fitzpatrick AL, Longstreth WT Jr, Mittleman MA, Siscovick DS.	
掲載誌 (番号又は発行年月日) JAMA 289(11): 1405-1413 (2003)	
キーワード アルコール、老人、痴呆、疫学前向き研究	
要 旨 背景: アルコール摂取は老人の脳血管や脳構造に複雑な変化を生じる。アルコール摂取が痴呆の発症率にどのような影響を与えているのか分かっていない。 目的: そこで、老人でのアルコール摂取と痴呆の発症危険性との関連について検討するため、(疫学的) 前向き研究を行った。 計画・対象: アメリカ合衆国の 4 地域で行われた前向き・住民ベースコホート研究である Cardiovascula Health Study に参加した 65 歳以上の 5888 名のなかから選択した痴呆発症例の 373 名と対照の 373 名によるコホート内症例対照研究を行った。対照群は 1999 年以前の年齢、死亡、1998-1999 年の通院の頻度に関して適合したものをを用いた。本研究への参加者では 1992 年から 1994 年の間に脳の MRI 検査と認知試験が行われ、1999 年まで追跡調査が行われた。 主要評価結果: 平均的アルコール摂取 [MRI 検査日前の 2 回の通院で行ったビール、ワイン、リキュール摂取の自己申告によって評価] による痴呆発症 [詳細な神経学的ならびに神経心理学的検査を基に評価] のオッズ比。 結果: 断酒状態と比較して、1 週間のうち 1 飲酒単位より少ないアルコール摂取の対象者での調整オッズ比は 0.65 (95%信頼区間[CI]、0.41-1.02) で、1 から 6 飲酒単位では 0.46 (95% CI、0.27-0.77)、7 から 13 飲酒単位では 0.69 (95% CI、0.37-1.31)、そして 14 飲酒単位以上では 1.22 (95% CI、0.60-2.49) であった。男性ならびにアポ Eε4 の変異を有する参加者では、飲酒量が多くなるに従って痴呆危険率のオッズ比が大きくなる傾向が顕著であった。我々はアルコール摂取と Alzheimer 病や脳血管性痴呆との間にも基本的に同様の相関関係を見いだした。 結論: 断酒状態と比較して、週あたり 1 から 6 単位の飲酒は老人での痴呆発症の危険率が低いことと関連している。	